



2025 年 9 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社 大和コンピューター
代表者名 代表取締役社長 中村 憲司
(コード番号：3816 東証スタンダード)
問合せ先 取締役企画管理本部長 寺川 英信
電話番号 072 (676) 2221

中期経営計画「DCX 2030」策定に関するお知らせ

当社グループは、2030 年 7 月期を最終年度とする次期 5 か年の中期経営計画「DCX 2030」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

当社は 1977 年の創業以来、ソフトウェア開発関連事業を中核に据え、堅実な成長を続けてまいりました。これまで、テクノロジーの急速な進化、経済危機、地政学的リスクの高まり、人口構造の変化、感染症の拡大など、さまざまな外部環境の変化に柔軟に対応しながら、事業を推進してまいりました。

近年では、農業事業、クラウドサービス、RFID(電子タグソリューション)などの新規分野にも事業領域を拡大し、一定の成果を上げております。今回策定した「DCX 2030」では、既存事業の需要を着実に捉えつつ、これら新規分野の成長をさらに加速させ、当社を支える新たな事業の柱として育成してまいります。

2027 年 6 月に迎える創業 50 周年を一つの節目と捉え、「DCX 2030」は当社グループにとって“変革期”と位置づけております。従来の考え方や手法の良い部分は継承しつつ、第二創業期としての変革を遂げるため、事業基盤および人的資本への積極的な投資を進めてまいります。

なお、「DCX 2030」の詳細につきましては、以下の添付資料をご参照ください。

本資料に記載された将来見通しに関する記述は、発表時点で入手可能な情報に基づいており、今後の経済情勢や事業環境の変化等により、実際の業績とは異なる可能性があることをご了承ください。

以 上

中期経営計画「DCX 2030」 (Daiwa Computer Transformation 2030)

株式会社 大和コンピューター

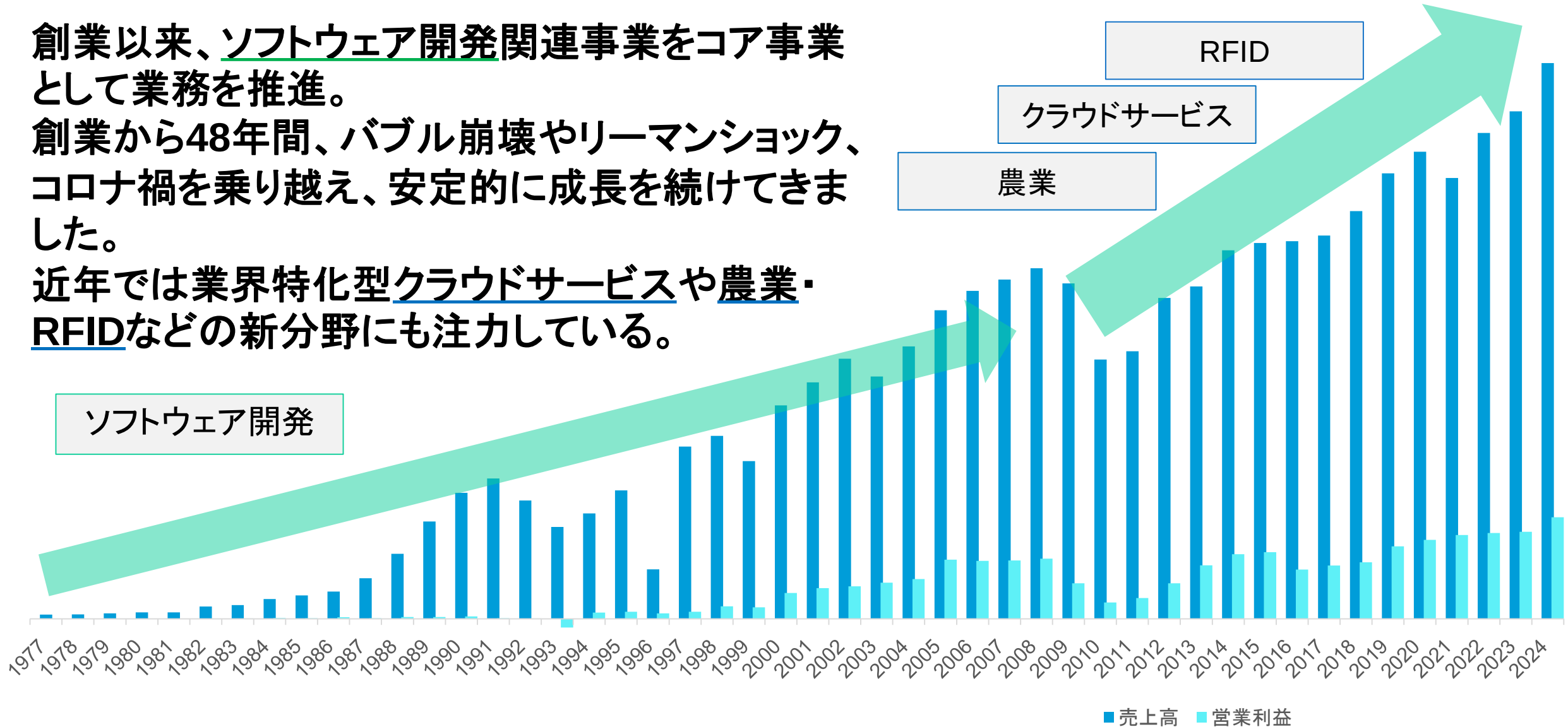
2025年9月5日

振り返り：大和コンピューターの歩み

創業以来、ソフトウェア開発関連事業をコア事業として業務を推進。

創業から48年間、バブル崩壊やリーマンショック、コロナ禍を乗り越え、安定的に成長を続けてきました。

近年では業界特化型クラウドサービスや農業・RFIDなどの新分野にも注力している。



度重なる物価上昇、更なる円安の進行懸念、世界情勢の急速な変化の影響により先行き不透明な状況が継続。

COVID-19を契機とした、価値観の多様化やリモート/ハイブリッドワークが定着してきている。
今後の外部環境の変化を見通すのは困難な状況。

2006年(上場時)

- ・ オンプレミス・ウォーターフォール型のシステム構築が主流
- ・ オフショア開発が主流
- ・ スマートフォンは未普及
- ・ インターネット回線速度は遅い(3G)
- ・ 人口ピーク期



2025年

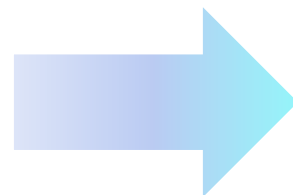
- ・ クラウド／SaaSへの移行が進み、アジャイル開発が主流
- ・ AIとIoTの急速な普及
- ・ スマートフォンが全世代に普及
- ・ インターネット回線高速化(5G)
- ・ IT人材不足

外部環境の変動をチャンスに変えて、大和コンピューターは今後も成長し続ける

中期経営計画「DCX 2030」概要

「DCX 2030」

5カ年中期経営計画
(2026年7月期～2030年7月期)



2030年7月期目標値

売上高	45.0億円
営業利益	7.0億円

● 重点注力事業

①クラウドサービス

- ・ 自社サービスの製品強化・販売強化

②スマート農業

- ・ 持続可能な農業を展開

③ AI関連事業

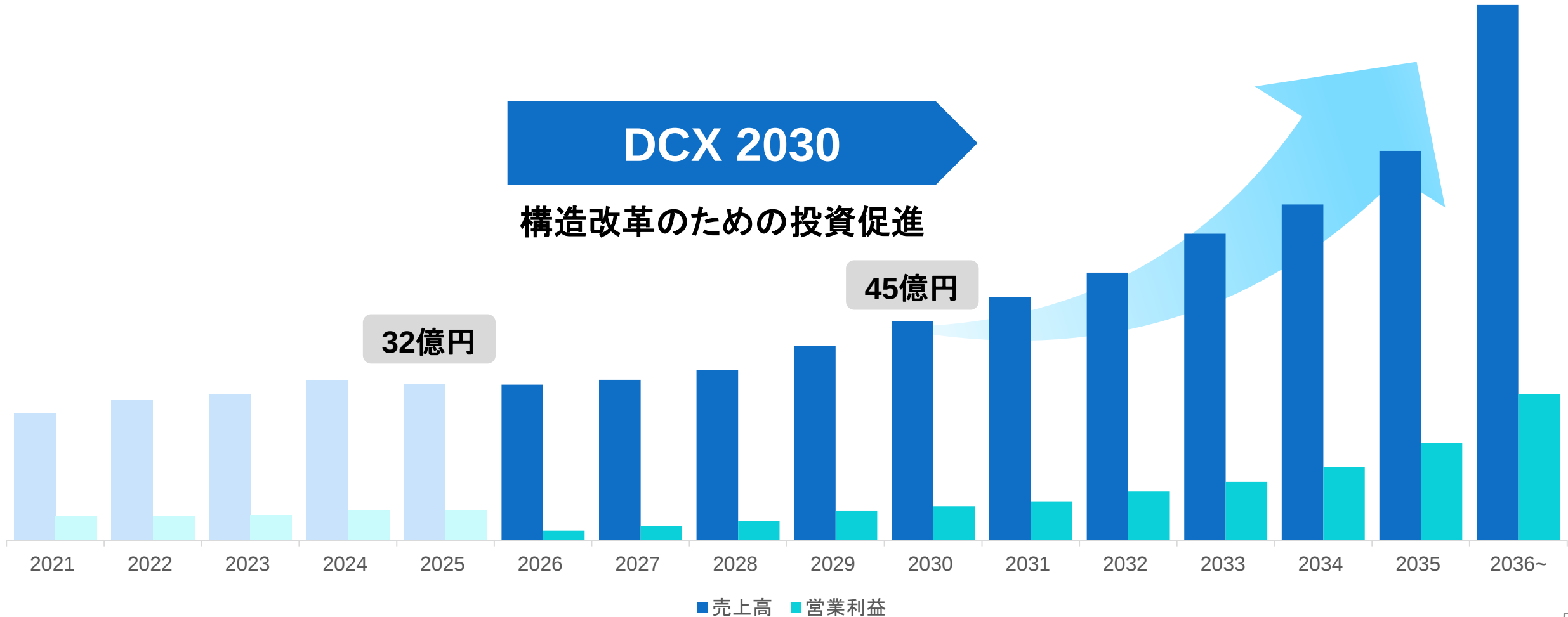
- ・ AIを活用し、生産性向上

ソフトウェア開発力が事業成長の根幹

第2創業期として、顧客とパートナーとの共創を加速し、未来を切り拓く企業を目指す

大和コンピューターの中長期成長イメージ

特に直近3年間で構造変革のためのハード面・ソフト面での投資を積極的に予定。
ITインフラ刷新や人材教育、既存事業、AI分野、M&Aなど投資予定の幅は多岐にわたる。



「DCX 2030」成長戦略

中長期的な成長に向けて、「DCX 2030」では、3つの成長戦略の軸を設定。
短期的な利益を追い求めるのではなく、中長期の持続的成長のために、
事業と人材への投資を積極的に実施。

①事業基盤の強化・ 再構築

- AI利活用によるソフトウェア開発の生産性を飛躍的に向上
- ソフトウェア開発に関するプロジェクトマネージャー人員増加
- 自社クラウドサービスやスマート農業への資本投下を強化

②ソリューション 提案の推進

- 企業のDX化やシステム刷新の需要が継続しており、顧客課題解決に向けた高付加価値のソリューション提案をパートナー企業とともに拡大
- NFCを活用したマーケティングツールを起点に、新規顧客基盤を拡大

③人材資本への 積極投資

- 高品質なサービスを開発できる社内教育制度の再整備
- 従業員エンゲージメントを高め、業績や労働生産性の向上
- 従業員スキルの可視化および必要スキルへの戦略的投資
- 働きがいに溢れる職場づくり

「DCX2030」重点施策

ソフトウェア開発における 生成AI利活用

- AI伴走による、ソフトウェア開発の生産性を飛躍的向上
- AIソフトウェア開発人材の増員
- 生成AI利用環境の整備

クラウド事業の拡張

- 自社サービス拡充による顧客基盤の拡大
- マーケティング機能強化
- クラウド事業によるストック型収益の更なる確保

スマート農業への注力

- 日本が抱える社会課題への挑戦
- デジタル技術と既存農業ノウハウを掛け合わせ、稼げる農業、誰もがやりたい農業を目指す

持続的成長のための パートナー戦略

- 事業規模拡大、新規事業創出のためのM&A
- パートナー企業との更なる関係強化
- アライアンス戦略

社内基盤刷新と高度化

- 社内ITインフラの刷新
- 情報システムの高度化
- AI活用による事務作業削減

教育への投資強化と 人事制度改定

- 社員への学びの機会の提供
- 開発力を高め、他社との差別化を図り、高品質を維持
- 働きがいを得ることが出来る環境の整備・構築

当社のコアビジネスとして、これまでの戦略を踏襲しつつ、堅調な成長を目指す。本事業を支える3つの行動指針「Speed」「Quality」「Gutsy」のさらなる実践を通じて、お客様からの信頼向上、技術者の育成、そして生産性の向上を一層推進する。



既存取引先との関係強化

- ・ 既存取引先との良好な関係を発展し、協業を強化する事で、コアビジネスであるソフトウェア開発分野の伸長を目指す

高度エンジニア育成注力

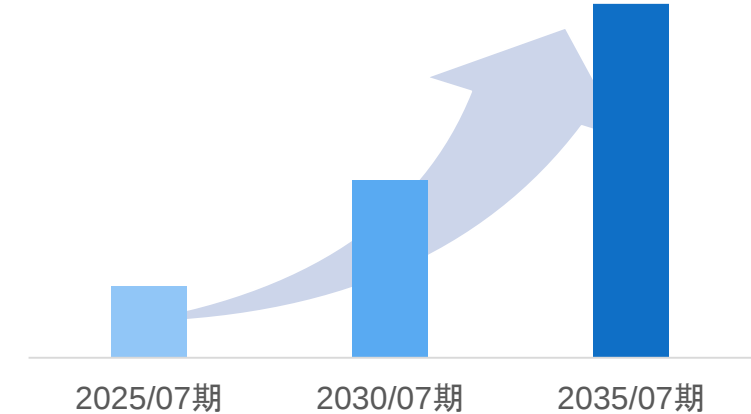
- ・ より幅広い案件に対応できるための高度エンジニア育成の基盤として、社内教育・研修をより充実する

AIソフトウェア開発促進

- ・ 生成AIの利活用による生産性向上を目指す

お客様に「利用したい」「使い続けたい」と感じていただけるような価値を提供することで、事業の拡大を一層推進・加速。
その実現に向けて、これまでのサービス提供実績を最大限に活かし、サービスの魅力をさらに高めるとともに、その魅力を効果的に伝えるための投資を強化する。

売上成長イメージ



SaaSビジネスの事業拡大

- ・ マーケティング、インサイドセールス強化による新規顧客開拓
- ・ 製品サービス強化にむけたリソース投入
- ・ 戦略的パートナーシップの推進

新しい収益モデルの構築

- ・ 業界ニーズにあわせた新サービスの提供
- ・ AI活用等による付加価値の創出

安心・安全な利用環境

- ・ インフラストラクチャーの増強
- ・ アーキテクチャー変更への継続的対応

事業戦略 スマート農業

農業従事者の高齢化・人手不足、日本の食料自給率低下といった農業の構造的課題が山積み。

大和コンピューターは、「日本の農業を強くする！」というビジョンを掲げ、得意とするソフトウェア開発技術と、農作業を長年経験した当社エンジニアの知見を組み合わせ、持続可能性が高まるスマート農業の開発・普及を目指します。

スマート農業分野に対し、積極的に投資を行うことで、デジタルを活用した価値創造を通じて、産地への貢献と日本の農業活性化を促進していきます。



※画像はイメージです

生産性の向上

- ・ QRコード農作業記録システムの機能アップデート
- ・ 灌水制御システムの製品強化
- ・ センサー×AIのデータ駆動で収量と品質を安定化させる

持続可能な農業

- ・ 農薬散布削減に寄与する次世代型病害虫駆除機『ピカとる』の機能強化
- ・ 遠隔農業の実装化
- ・ 養液メロン栽培システムの開発・普及

人手依存の解消

- ・ データに基づく仕組化された栽培の実装化
- ・ 作業負担軽減に寄与するツールの開発
- ・ ロボットやセンサー活用による重労働の削減

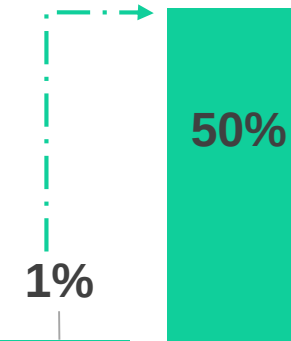
事業戦略 AI関連事業

AIは、人間の能力を増幅させることができる強力なツール。
そのツールを、自分なりのバランス感覚を持ち、徹底的に利活用できるようになることで、
既存業務の質が向上し、新たな領域へチャレンジする時間を確保することができる。

エンジニア育成

- ・ 生成AIスキルアップ研修を実施
- ・ 生成AIを駆使できるエンジニアの割合を50%に引き上げ

生成AIを駆使できる
エンジニア比率目標



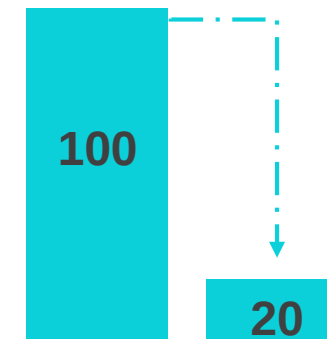
更なる生産性向上

- ・ 生成AIソフトウェア開発ツールの社内トライアルを実施
- ・ 事務作業に生成AIを積極的に利活用

自社サービスへの AI機能追加

- ・ Platinum School、Platinum Fitnessの顧客満足度が
高まるAI機能を付与
- ・ スマート農業にてAIを活用した機能実装を予定

生成AIによる
作業工数削減目標



新規事業創出

- ・ 生成AI導入支援サービスを検討
- ・ 大和コンピューターのAIエンジニアが導入をサポートし、
企業の生産性効率向上を支援

当社は、「P(Person・Process・Product)」の卓越性を通じて社会に貢献するため、社員一人ひとりを企業の成長を支える「人財」として位置づけている。

この理念に基づき、経営理念である「ダイヤモンド経営」のもと、持続可能な価値創造に向け、以下の取り組みを推進する。



ダイヤモンド経営

社員一人ひとりをダイヤモンドのカット面にたとえ、それぞれが持ち味を発揮して活躍することで、会社全体の成長と発展につながるという理念です

優れた人材の確保

- ・ グローバルで通用するスキルと志を持つ人材を採用し、創造性と競争力の向上を図る
- ・ そのため、これまで中心であった新卒採用に加え、中途採用人材の登用にも積極的に取り組む

企業価値向上をリードできる人材の育成

- ・ 変化の激しい市場環境や技術、製品に迅速に対応するため、柔軟な思考とリーダーシップを持つ人材を育成する
- ・ これを実現するために、積極的な人材育成投資を行う

魅力ある職場環境の整備

- ・ 働きやすく効率的な職場環境を整備し、チームの結束力を高める仕組みを導入する
- ・ 従業員の能力発揮を支援できるよう、人事制度の継続的な改善に取り組む

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら、現実には、通常予測しえないような特別事情の発生、または、通常予測しえないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。本資料利用により生じたいかなる損害も当社は一切責任を負いません。